

来週の「売り物記事」はこれ



2018年2月16日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

被爆した少女を追って

18日(日)



原爆投下3日後、当時の毎日新聞大阪本社写真部・国平幸男記者(2009年に死去)が焦土の広島で撮った1枚の少女の写真があります。「私の母ではないか」。昨年、写真を見た東京の男性が名乗り出たのを受け、毎日新聞が専門家に鑑定を依頼すると、同一人物であることが判明しました。73年の時を経て対面した母(1977年に死去)は、被爆後どのような人生を歩んだのか? 撮影した記者の思いは? 家族と毎日新聞広島支局の記者が歴史をたどります。

筆者は広島支局の山田尚弘記者です。



明治期の英国紀行作家に再び脚光

イザベラ・バードが見た日本

夕刊特集ワイド 19日(月)



明治維新後の1878年、日本の東北地方と北海道を旅した英国の女性紀行作家、イザベラ・バード(1831~1904年)を知っていますか? 彼女の関連書が今、静かに売れ続けています。バードは水田の広がる山形・米沢の地を「アジアのアルカディア(桃源郷)」と称賛したことで有名です。ただ、彼女の心をつかんだのは風景だけではありません。それは「明治150年」に盛り上がるこの国が失ったものかもしれません。

消えない傷

くらしナビA面 21日(水)

ドメスティック・バイオレンス(DV)がある家庭で育つ子どもは、性的虐待を受ける割合が多いことが、全国児童相談所長会の統計で出ています。全国の児童相談所が対応した性暴力被害事案のうち、約1割でDV問題があり、疑いも含めると2割にも。「魂の殺人」と言われる子どもへの性暴力の実態について、当事者の証言を交え5回にわたって報告します。



いまさら聞けないデジタルの話

くらしナビB面 20日(火)



ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)の中でも、写真を楽しむことが中心のインスタグラムが急速に人気を集めています。昨年の新語・流行語大賞の年間大賞にも「インスタ映え」が選ばれ、日本だけではなく海外でも広まっています。どのような特徴があって、どうすれば手軽に活用できるのか。ITジャーナリストの法林岳之さんが解説します。

それホント? ネイルケアで高齢者が明るく朗らかに――

週刊 サラダぼうる

B面 19日(月)

ネイルケアに取り組む福祉施設が増えています。ネイリストと笑いながら世間話をして、ネイルに合わせたおしゃれなメイクをすれば気分も上々。99歳で人生初のネイルを経験した女性は「こんな年でと思ったけど、おしゃれするのもいいわね」とほほ笑みまします。認知症の方が落ち着くとの研究結果もでています。



空前のネコブーム

現代日本社会で愛される理由は

オピニオン面 [論点] 21日(水)



日本で空前の「ネコブーム」が起きています。戌年を控えた昨年末、同年におけるネコの推計飼育数がイヌを上回ったというペットフード協会(東京)の調査結果が発表されました。ネコが上位となったのは1994年の調査開始以来初めてのことです。「ツンデレ(時に素っ気なく、時に甘える)」のネコが現代日本社会で愛される理由は何でしょうか。「猫の日」(22日)を前に考えます。

時代が見える――。オピニオン面にご期待ください。

仮想通貨の仕組み

科学面 22日(木)

仮想通貨交換業者コインチェックから、580億円相当の仮想通貨が盗まれる問題が発覚しました。こうした通貨はどのように「新規発行」され、円やドルなど既存の通貨と比べてどのような利点や欠点があるのでしょうか。膨大な電子記録をネットワーク上のコンピューターに分散管理する「ブロックチェーン」など、仮想通貨の仕組みや課題を取材しました。



年間企画「高校野球 新世紀」第5部

スポーツ面 23日(金)から全5回



日進月歩で進化していく高校野球。かつての常識が非常識に、そして非常識が常識になることは珍しくありません。例えば、バント多用の手堅い戦術が中心という伝統的なイメージも、近年では積極的に振っていく強打優先のチームが増えてきました。高校野球界の底流を掘り下げる年間企画「高校野球 新世紀」の第5部では、技術や戦術、安全対策、ルール、道具など、高校野球の現場で起きている多方面の変化をレポートし、今後の方向性を探ります。